

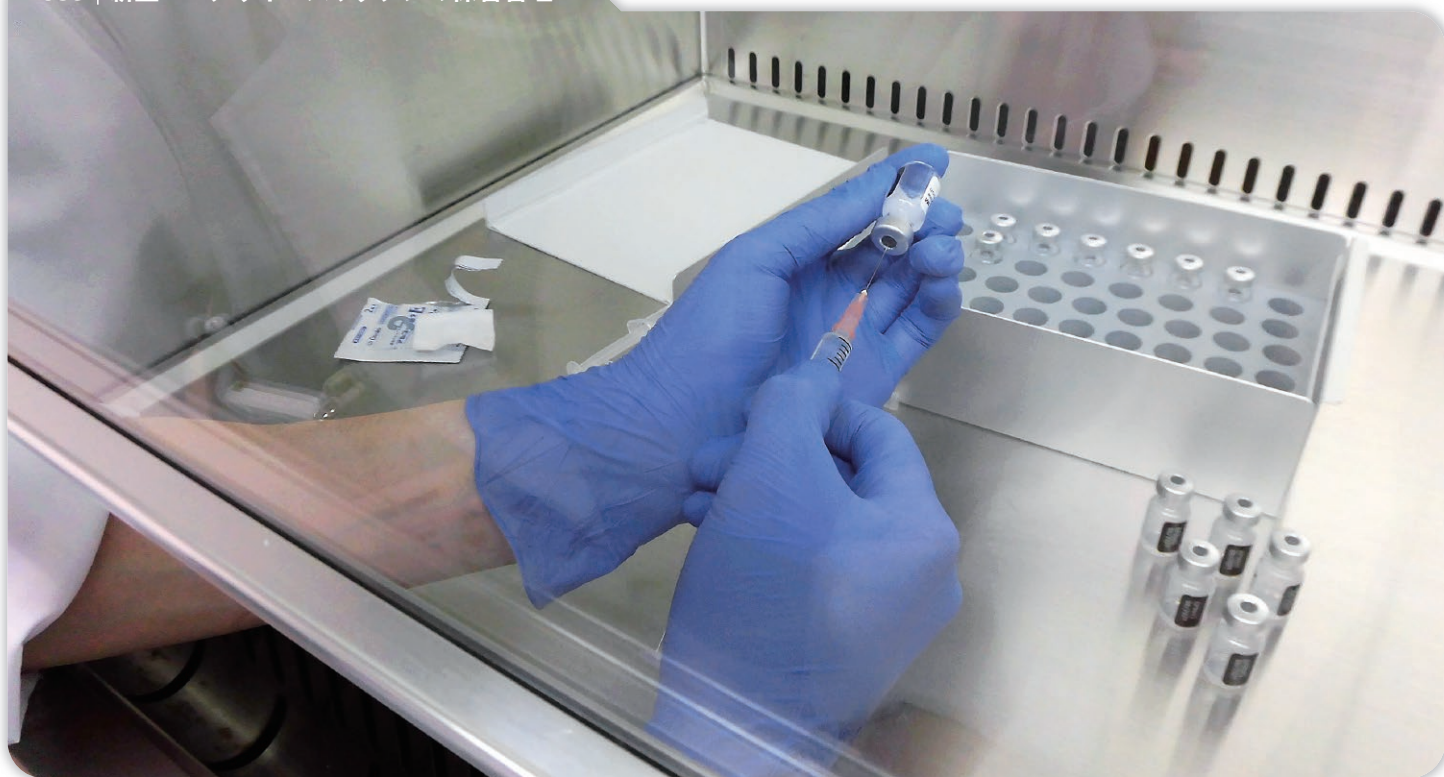
養 氣 軒

ようきけん

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

083 | 新型コロナウイルスワクチンの保管管理

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。



新型コロナウイルスワクチンの保管管理に携わって

令和3年3月新型コロナワクチンの接種が医療従事者を対象に先行して始まりました。当院は基本型接種施設として役割を担い、薬剤部では東彼地区の医療従事者用ワクチンを保管管理するとともに連携型施設へ分配しました。

新型コロナウイルスワクチンとして最初に認可されたファイザー製薬のワクチンをご存じのとおり -90°C ～ -60°C という超低温の保管が必要です。国内のある施設ではフリーザーが故障し、ワクチンが無駄になったという報道(後に電力不足が原因と判明)がありました。適切な保管管理の重要性和責任感をより一層心に留めました。フリーザーの正常運転、保冷温度の点検を時間内は薬剤部が、時間外もまた事務部が協力して実施しています。

ワクチンが安全に届けられるよう、そして皆様が無事接種され、新型コロナウイルス感染症終息に繋がることを願っています。(薬剤部長 小山田 純治)



X線テレビ装置更新

診療放射線技師長

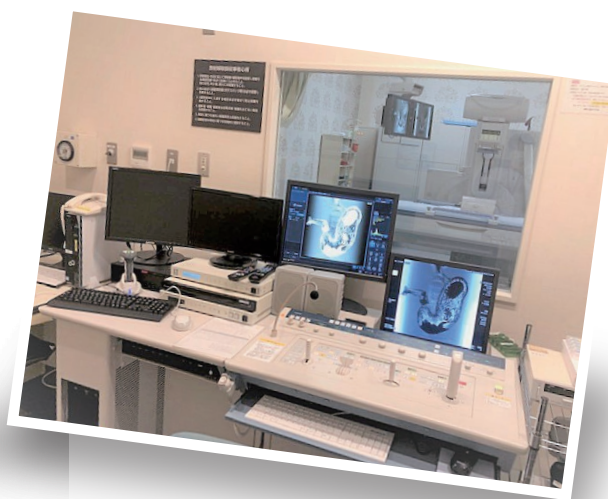
森田 伸二

2021年3月にX線テレビ装置（デジタル透視撮影装置）を更新しました。

X線テレビ装置は、胃透視や注腸検査（大腸検査）、泌尿器科の造影検査、また透視下での外科的処置や内視鏡下での造影や治療、整形外科での造影や整復など色々な診療科で必要とされる機器です。

また、今回、検査室内のモニターを天井から吊し、自由な位置で観察できるように設備を整え、検査や治療を行いやすくしました。

安心で安全な放射線診療のために、日常点検と保守定期点検を行うことで、機器の安定稼働を心がけています。



X-ray television equipment

企画課の業務について

企画課長 出良 和之

企画課は、財務管理係、契約係、経理係の3つに分かれています。

財務管理係は、当院を受診した際の診療費や駐車場利用料などのお金を収納する業務を行っています。契約係は、医薬品、消耗品などの購入や業務委託の契約など様々な事項の契約、購入、納品検収を行っています。経理係は、病院の費用全般の支払いを行い、決算業務を行っています。

この3つの係からなる企画課は、大切なお金の管理（経理出納事務）を主な業務としています。診療に直接は関係していませんが、患者さんに安心安全な医療を提供できるように経営の安定に努めています。



診療科紹介(代謝内科)

統括診療部長 木村 博典

内分泌疾患診療については、県内でも常勤の専門医が勤務している病院は非常に少ないため、地域の先生方から多くの紹介をいただき、専門的な診断や治療を行い、地域における内分泌専門医療機関としての役割を果たしていくことを目指しています。

下垂体・副腎などの内分泌疾患では、各種負荷試験を用いたホルモン分泌能の精密検査やRI検査やCT・MRIによる画像検査により正確な診断を行い、希少疾患に対しても専門的な知識や豊富な経験を活かしながら治療方針を決定しています。

甲状腺疾患については、甲状腺機能異常（バセドウ病・橋本病など）の診断と治療、甲状腺腫瘍に対する精査（エコーガイド下穿刺吸引細胞診検査）を行っています。

糖尿病診療では、コメディカルを加えたチーム医療を提供できる診療体制を整え、糖尿病合併症予防のための療養指導に力を入れています。糖尿病治療においては病態を考慮した治療を実施しています。インスリン分



Department of Endocrinology

泌能やインスリン抵抗性の評価、超音波断層法や血圧脈波計を用いた動脈硬化病変の評価、神経伝導速度検査による抹消神経障害の定量的評価、腹部CTや頭部MRI検査による合併症の評価など、糖代謝動態および合併症進展の状態を正確に評価した上で、治療方針を決定しています。

内分泌疾患についての専門的な診断や治療が必要な患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽にご相談ください。

部署紹介(医局)

医局長(循環器内科部長) **二宮 暁代**

医局は、医師・診療看護師・医局秘書で構成されています。

毎朝、休日・夜間の時間外緊急入院患者さんについてのカンファランスを行い、診療業務の円滑化・診療の質の向上を目指しています。

また、医師を中心に診療看護師も参加し、月2回の医局会を開催し情報共有や懸案事項についての「話し合い」を行っています。

2か所の医局談話室の活用や親睦会などを積極的に開催し(現在はコロナ禍のため行っていませんが)、各科多忙な中、医師相互の意思疎通・親睦をはかりな



がら日々の診療を頑張っています。

医局秘書も7人が所属し、書類作成等・秘書業務や研究の補助などを行っています。

部署紹介(臨床研究部)

臨床研究部長 **福留 隆泰**

当院の臨床研究部は2002年10月に設置され、2004年4月から長崎大学医歯薬学総合研究科医療科学専攻の連携講座(臨床神経科学講座)として文部科学省から承認されています。

臨床研究部の主要な役割は国立病院機構のネットワークを利用した臨床研究を行うことですが、当院が独自で行っている研究に重症筋無力症(MG)の新しい治療薬の開発があります。根本的な治療法のないMGに対する副作用が少ない治療薬の開発は重要なテーマです。

臨床研究は全ての職員が携わることができます。日々の診療で生じる疑問がテーマとなるからです。研究計画



の立案や実施および結果の解析や論文作成について、臨床研究部は支援します。

編集後記

総合情報管理室長 **宮崎 哲彦**

去る3月14日、長崎地方気象台が桜の開花宣言を行いました。2月以降平年より大幅に気温が高い日が多かったことから、平年どおりだった昨年に比べ10日も早く、最も早い開花の記録を更新したそうです。4月には気温が20℃を超える日も少なくありませんでした。かつて5月といえば爽やかな新緑の頃であり、きらきらと輝く水田に植えられた色鮮やかな稲を見て皐月だと実感する季節でしたが、ここ数年は異常気象という

言葉も珍しくなくなり、更には新型コロナウイルス感染症の影響もあり、日本らしい四季の移ろいを楽しむこともできなくなっているように思えます。

新型コロナウイルス感染症が国内で初めて確認されてから既に1年以上が経過し、現在も厳しい状況が続いていますが、今後少しでも事態が好転し、皆さんが明るく前向きに進んでいけるようになることを願うばかりです。